京城新聞

●外國貿易旬報（六月中旬分稅關局調査）

區分	本旬 本年分	前年同期
輸出品價	三八二、五五〇	四一八、五九六
輸入品價	一、〇一九、七七五	一、三〇二、四四〇
合計	一、四〇二、三二五	一、七二一、〇三六

本年貿易額の港別左の如し

港名	本旬分 輸出額	輸入額	計
仁川	七七、四三五	四七三、三二七	五五〇、七六二
釜山	九七、〇三八	一七七、三一六	二七四、三五四
元山	三三、三二五	六三、八七二	九七、一九七
鎮南浦	一四、三三六	一〇八、六六八	一二三、〇〇四
京城	―	九六、三五四	九六、三五四
群山	三、三四〇	二六、二〇四	二九、五四四
木浦	一五、三三七	一六、九六六	三二、三〇三
馬山浦	八、六五九	六、三三五	一四、九九四
清津	一〇	三、五四〇	三、五五〇
城津	一、二七八	九、四八五	一〇、七六三
新義州	一七、一九三	一八、七五八	三五、九五一
計	三八二、五五〇	一、〇一九、七七五	一、四〇二、三二五

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較すると左の如し

港名	前年一月以降本月迄の累計 輸出額	輸入額	計
仁川	一、七三七、五七五	九、〇二〇、八三三	一〇、七五八、四〇八
釜山	一、八四三、二〇〇	三、九八二、二四八	五、八二五、四四八
元山	四四四、〇五八	一、三七三、二一四	一、八一七、二七二
鎮南浦	七〇三、一一九	一、四六八、六九二	二、一七一、八一一
京城	七、二三四	一六八、七三八	一七五、九七二
群山	一、〇八八、四〇六	二九〇、四四八	一、三七八、八五四
木浦	五八六、二六四	三〇八、一三七	八九四、四〇一
馬山浦	一三六、七九二	五四〇、三九〇	六七七、一八二
清津	六八、八二六	一〇〇、七六八	一六九、五九四
城津	一三〇、四二三	二四二、五四〇	三七二、九六三
新義州	一、七四六、二二〇	七〇五、九九九	二、四五二、二一九
計			

●輸出重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
米	一八八、〇〇〇	一六一、九六八
大豆及小豆	五五、一四一	三六、五二六
鮮魚乾魚及鹽魚	四、九〇〇	三〇、八五八
牛皮	八、一二六	四、九四二
人參	―	二五六
生牛	二、六六五	二、六三〇

●輸入重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
食鹽	三、一〇九	四、三一三
砂糖及精糖	四九、五一三	三四、〇三四
清酒	一四、六七七	一五、二三九
石油	一、六六八	八九、二二三
打綿	一、二〇〇	三、五三九
綿糸	二一、八三〇	五〇、三二八
生金巾及シーチング	七六、一六八	五六、七五三
晒金巾	三一、三三四	二一、九二七
日本木綿	三四、九四九	六二、四二九
麻布	四九、三〇九	三三、八二九
絹布	三〇、〇八一	一五一、七七七
紙	一二、〇〇七	一三、〇五四
石炭	四一、七六五	一三、九五〇
熟鐵	一四、〇二三	四六、一一八
烟草（葉卷ヲ除ク）	一六、三二七	三七、三六七
木材及板（鐵道枕木ヲ併ス）	五三、六三三	六七、九九九
セメント及石灰	一六、三七九	八、五五六
マッチ	一二、四二三	八、一二四

●船舶法規の制定

關稅局に於て船舶檢查法及び同登錄法の起草中なりし事は既報の如くなるが愈々脫稿し目下度支部に於て此の草案に就き關係吏員の間に審議研究中にして不日確定の上閣議を經統監府の承認を受けて發布せらるべしと云ふ因みに船舶に關する事務は官制上農商工部商工局の主管に屬するも一官制には商工局主管事務中「水上運輸に關する事項」と規定せり同部には船舶の取締に關する地方機關未だ完備せざるを以て沿岸各地に稅關を有せる度支部に依托して右の事務を處理せしむるなるべし但し嚴格に言へば官制の一部を改正して水上運輸に關する事項を關稅局の事務となすの必要あるべしと說く者あり

●納稅に關する流說

從來租稅を滯納したる者に對しては當局者は入牢笞杖等の體刑を加へ強制的に徵收する等甚だ苛酷なる處分を爲し來りしが斯の如きは財務刷新の趣旨に反するものとし近來は強制手段を廢して專ら勸誘督促に依り徵收せし由なるが其の結果頗る良好にして昨年度の如きは既報の如く豫算以上の增收を得たり然るに頑者流言を放つ者ありて政府は財務機關を地方廳に附屬せしむるの議ありと稱し其のため財務署の發する納稅命令に躊躇する者あるに至りしかば度支部大臣は此の如きは無根の流說に過ぎざる事を地方財務官に訓達し尚內部大臣に對し各地方官に同樣の訓令を發して其の無稽なる妄說のために納稅の義務を怠るが如き者なき樣發令方を依賴せりと云ふ

●龍川郡土地問題

一進會員が農商工部より光武九年に借受けて開墾利用せし鴨綠江畔龍川郡內の土地を此の程に至り雲峴宮が其の所屬なりと主張し帝室有及び國有財產調査局は此れを雲峴宮所屬なりと決定したるため兩官廳が相異なれる處分を主張して相讓らず遂に過日同地に於て兩者間に大鬪爭を生じ雲峴宮關係者は重傷を負はされ一進會員二十餘名は同地の警察に拘引せられたる事は既報の如くなるが此の雲峴宮關係者と云ふは西北學會員にして此の問題は一進會對西北學會の關係あると共に獨立せる兩官廳即ち農商工部及び帝室有及び國有財產調査局の處分當否の問題なれば大いに世人の注目を惹き當局者も愼重に調査しつゝある由なれば遠からず解決せらるべしと云ふ尚關係者の鬪爭に就ては內部警務局より人を派して調査中なればこれ亦近々處決せらるべしと

●園藝農產物需給狀況

仁川港及附近に於ける園藝農產物の需給關係を調査するに凡そ左の如し

第一種

（甲）果實

（其一）韓國在有のもの栗、棗、柿、梨（靑梨、柿梨、靑梨）桃（毛桃、無毛桃）林檎、梅桃、胡桃、柘榴、榲桲、銀杏、杜羅松、葡萄、枳殼、櫻、野苺等の類

（其二）外國輸入のもの（イ）支那よりするもの林檎、桃、梨、柿、棗、楊梅、葡萄、胡桃、苺、枇杷、佛手甘、林檎、杏、芭蕉實、臺灣ジャボン、鳳李、銀杏、無果花、龍眼肉等の類（ロ）日本よりするもの蜜柑、夏蜜柑、林檎、金柑、銀杏、都李、巴旦杏、柿、內棗、柚、枇杷、楊梅、桃柿等の類

（乙）蔬菜

（其一）韓國在有のもの白菜、大根、甜瓜、胡瓜、南瓜、苦瓜、西瓜、瓢、瓜、茄子、中長茄、丸茄、長茄、蕃茄、甜甘藷、鵲豆、菜豆、大角豆、野蜀葵、豆芽（モヤシ）、蓴、蕗、蓮根等の類

（其二）外國輸入のもの（イ）支那よりするもの、蓮根、胡瓜、支那菜、馬鈴薯、西瓜、胡蘿、甜瓜、甘藷、蒜（ロ）日本よりするもの玉葱、宇土、葱、水菜、蕪、慈、大根、八蒼、午蒡、菜豆、莢豆、西瓜、南瓜、子、蘆、諸、蕷、里芋、ツクネ芋、馬鈴薯、慈姑、百合根、豌豆等の類

（丙）花卉

（其一）韓國在有のもの（イ）民家に栽培するもの翠菊、百日草、薔薇、鳳仙花、鷄冠花、菊、松葉牡丹、おしろい、向日葵、花葵、罌粟、錦葵、芍藥、天神花、紫爛花、牽牛花、牡丹、芍藥、花（輸入品かも知らざれども目擊す）まろしやきく（同上）百日紅、海棠、百日葵、萱草、カンナ（輸入品かも知れず）等類（ロ）山野に自生するもの薔薇類、蔦、百合、天竺百合、姫百合、燕子花、小燕子花、躑躅、罌麥、桔梗、金萱、蘆花菖蒲、女郞花、サンクワ、射干鳶草、旋花、山吹、撫子草、菰等の類 其（二）外國輸入取調中

（丁）雜

（其一）韓國在有のもの（イ）工藝用、棉、大麻、苧麻、靑麻、楮桑、蘭、莞、ワンクル、備後蘭、七島蘭、莞胡麻荏、蓖麻、烟草、藍類、草藍、菘藍、紅藍花、扈子、瓠、柳、葦、荻、菖蒲（ロ）藥用、蔘、山蔘、蒼朮、茯苓、澤瀉、ソウリンヤ（ハ）食用桔梗、蕨、莧、麻栗、荏葉、小豆葉、松杉の肉皮

（其二）外國輸入のもの未だ之を見ず苗木に付ては以下に記すべし

（戊）種子、苗木

（其一）韓國在有のもの果樹に在ては京城方面にのみ桃栗果の苗木を韓人間に分配することさあるも僅少なりと云ふ蔬菜に在ては前記韓國に在有する豆菜類の種子を韓人市場に販賣するを見る花草に在ては自然發育のものを嗜好に隨て栽培することあり鳳仙花の如きは多く之を見受く

（其二）外國輸入のもの果樹に在ては柑橘類を除き其他總てのもの蔬菜總て花草多少を問はず總て新種のものに在ては松ポプラ櫟桑、楊柳、明石屋樹等（未完）

●百姓の恩

新渡邊博士百姓の像を頒つ

廿一日午後一時より東京音樂學校奏樂堂に開かれたる第四回報德婦人會は近頃趣味ある語り草を薦きぬ先づ桑田博士の開會の辭に始まり最後に壇に上りたるは新渡邊博士にて『民の恩』なる題下に古へ人は四恩など稱して恩といふことをゆめ疎ならず肝に銘じ必ずその德に酬ゆるの覺悟厚かりしも世の開け行くまゝに恩を仇に返すやうな不屆者が出づるやうになつては世の季と覺ねたりとて美しき昔語に移り昔水戶の烈公はこれなくては寸時も命をつなぐを得ぬ米なり野菜なりを野に耕する百姓の恩は子々孫々に至るまでも忽にすべからずとて金屬製の百姓の像を作り身寄りに頒ちて三度の膳の上に安置させしといへり實にも後世の人の則とすべきことなりと余は深く感ずる處ありとて手に一個の人形をかざし私は此御話に感せし揚句其の人形に似寄りのものを作つて會員諸君に差上げんと考へしも此新渡戶は大の貧乏で思案に困りたるに元第一高等學校の教授たりし鹽谷氏より鑄金家小林善兵衛氏が實費にて作り遣らんとの芳志を傳へられ早速其勞を煩はしたるとて見らるゝ如く高さ一寸ばかりアンチモニーにて御百姓の像が一個十二錢で出來上りたれば貴方の御土產に差上ぐることゝせり何卒これを三度の膳に安置せられて百姓の恩ばかりでなく天地父母君師匠等の恩を御忘れなきやう平に御賴み申す斯くてこそ烈公の誡めも後の世に花咲き穩りて道德皷吹の一助ともなるべしと熱誠面に溢れたれば並居る會衆皆な襟を正し感謝の餘り打泣ける令孃も見受たり

小品文 失戀　楓川生

殘月梢頭に掛り靄々たる淸霞を帶ぶ南山公園の岩上に腰掛け居る一人の青年、茅髮茫々として眼光鋭く、何やら悲憤に堪えざる者の如く、頰を傳ふて玉と碎くる暗淚三四滴、沸き返へる胸中の煩悶を壓へんとして能はざる者か劍を切り腕を扼して天を睨み居りしが、奮然起つて「腕力々々」と呟き乍ら懷中に隱し持ちたる洋刀を右手に行く事五六間、亦た何とか思ひけん「忍耐々々」と洋刀を打捨て踵を返さんとする時、靄に蔽はされ居る森林中より梢へを傳ふて聞ゆる放吟「寒に堪ふるの梅の花は正に薫しく人間萬事忍耐に在り…」青年は此の神傳の如き福音を聞て左も愉快らしく微笑を漏し消へ行く靄と共に姿は何所ともなく、倭城臺紀念碑の下に昨日邊り結びし如き丸髷姿の十八九の女が蕭々泣きつゝ彼を見送つて『容して下さい』

浮世ぐさ ●氷水屋の始

明治五年東京雜誌第四十四號に『昨夏橫濱の氷會社より氷を賣り出し其の價甚だ安く衆人の賞美一方ならず此の會社の發起人は中川嘉兵衛といへるものにして七八年前より氷のことに苦心し或は富士山の絕頂より採り來りたるも途中にて悉く水となりて大なる損害を爲し或は東奥の山民と約し冬の間に氷を貯へ春に至り運送せんと圖りしもたまゝゝ時變ありて果さず然れども志を屈せず種々の工夫を凝らし北海道に製氷場を設け氷塊を製したりしが此の計極めて機宜に叶ひ終に大に發賣することを得たり而して當夏益々其の業を盛大になさんとて報條を出し五月五日より所々に於て發賣せり』とあり又同年四月の東京雜誌にも『今佐藤終度吉氏中川嘉兵衛氏と謀つて箱館に於て天產の堅氷を截斷し築地新富町の氷室に船漕せしが此節積入最中にて極めて壯觀なり其の近傍に至れば人をして不覺膚に粟を生せしむ、不日店を開きて賣捌を始むる由を聞きて雀躍に堪へず思へらく東城中に住するもの貴賤老幼を問はず之が爲め本年炎暑の苦を忘るゝに至るべしと故に速に一般に向つて此の歡情を共にせんことを欲す』とあり、又同年六月の雜誌日要第三十號に『近日箱館より氷塊運漕の序氷園の舖を贈り來れり、氷の効も亦大ならずや』とあり以下何れも箱館氷を讃め讃めし證となすべし（つゞく）

小說 新不如歸（四十五）　篠原嶺葉著

百合子は實家の座敷に入ると、ワッとばかりに泣き倒れた。

母の槇子も、娘の樣子に驚いて傍に打寄り、

「まあお前どうしたのだ、那樣に泣たつて理が解らないぢやないか、來る途中で奈何か爲たのかい、ねえ。」

「百合子さん、奈何なすつたの、早く樣子を聞かして下さい、ねえ奈何なすつたの。」

と、左右から交々尋ぬるのである。

百合子は漸うに淚の顏を上げて、堪られぬまで悲しい聲に、

「私今日ほど悲しい目に逢つたことは生れてから始てです、家を出る時から淚の出ほど悲しい事があつたのを、ジッと耐へて出掛て來ると、又途中で泣くにも泣けない悲い目に會つたもんですから、もう悔しいのと悲しいので、途中なんか甚麼に歩いて來たか夢中に步むで、此家の門の中に入つたら耐へられなくなつて淚が無性に零れて口も何も利け無いんですもの……、吁々あんまり悲しくて胸の中が痛くて爲やうがありません。」

と、淚ながらに胸の邊を撫るのである。

母は心配さうな顏色で、

「一體まあどうして然う悲しいのか、早く理をれ話しなさい。」

と云はれて百合子は、姑奈加子の無情の仕打から、途中で足柄少佐に出會つた事の顚末を具に物語つた。

聞き了つた槇子は、百合子の境遇を深く憐に思ふて。

「そりやお前の悲しがるのも道理な事だが、一体阿母さんと云ふ人は、奈何して那樣に慳貪に有仰るんだらうね、お前何か阿母さんの氣に障るやうな事でも爲たのぢやないか、でなくちや然う行つた早々から機嫌の惡からう筈がないぢやないか。」

「でも私何にも母樣の御氣に障るやうな事は無いのですもの……。」

すると、槇子は歛め顏に、

「しかし、何か虫の居所でも惡かつたので那樣に御機嫌が惡かつたかも知れないが、くら嫁と姑だからつて、然う理もなく睨み合ふもんぢやないから、どうせ他人の中に行つたからには、泣く程辛い事もあるに相違ないけれど、其處が辛抱だ夫婦の間さへ睦じけりや、辛抱して親切を盡す中には、必然姑さんの心も和いで今の辛さを昔話にする時節もあるから、大抵な事は辛抱しなさい、左右何事も辛抱が大事だ、姑さんは足柄少佐だねそりやもう因はと云へば譯が惡いのだから、決して他人を損ひには當らないけれど、もうあゝして三千圓と云ふ金子まで出して、言つて下れるな、決して言はんと云ふ約束が成立た上は、何處までもそれを守るのが本當だのに、罪も科もないお前にまで、それを恩に被て左や右く云ふと云ふのは、直個軍人にも似合ん卑劣な人だ、あゝ云ふ人は自分の氣に入らない事があると、甚麼仇するか知れないから、それが一番怖いのだ、若も西脇は斯う〳〵だと尾花にでも話た日には、尾花は欲しがつて貰つた程だから、假令管はずに伴てるにしてからが、世間と云ふものがあるから世間へ對して連れる理に行かなくなる道理だからね、本當に困りもんだよ、しかしまあ何と云はうと、登夫無法な事も云ふまいから、辛くツても辛抱して怒らさないやうに爲る外爲方がないわね。」

●東京電報

南内閣翰長園田法制局長安樂警視總監古賀警保局長は何れも辭表を提出したり（四日發）

創刊の趣意

帝國の勢力を進張し、帝國の國旗を建立するは、實に神功皇后以來累次發生したる對韓事件の目的なり、故に吾人は我保護政策の得失に關して常に絶大なる熱情を表し、大膽なる評論を發し、熱心なる討究を盡くし、之を論議することに力めたり。

京城新報を創立したる精神及主義は、是に之に外ならざるなり、而して料らざりき幾回の發行停止は吾人の論議を中止せしめ、尚且つ吾人に迫るに主義の改變を要請し、官憲の謳歌を請求するが如く、吾人を目するに帝國の利益を妨害するベツセルの亞流と惡評するに至れり、是れ豈に帝國の臣民として忍び得べき耻辱ならんや。

是を以て微力を顧みず、重ねて言論の機關を創設せり、想ふに讀者諸君の願へる國民の膨脹は吾人の願也、日本國旗が建立せらるゝ迄、保護政廳が韓國に存立する間、統監旗が漢城の一角に翻へる間、吾人は此言論を休止せざるなり

夏木立
さても見事な
統監旗

●對星樓茶話

△過日元老大官の統監邸會合は先づ近來の好出來と可申之が爲めに漢城に於ける各方面の民心を總攬懇撫せしめたるの効力は多大なりしことゝ存候、總じて舊老を尋ね故舊を敬し、長老を重んずる社會的道義を基とする東洋風教の信條は政策にも政略にも不可忘の重要事たるにとを今回省覺致候。

△久しく各新聞及各通信員間に介存したる一種の私觀暗感が、累次の宴席に於て發表せられたるため、寧ろ之を一轉して記者團の私交を温め、誤解を去るの機會となりしは深く可慶事にて候。

△一進會が李總理より多額の報酬を得たりとの風説を吹聽するもの有之候、該風説は所謂韓人の中傷風説にして現内閣破壞風説の一とも可申候

△天、黄梅に入りて漢水未だ氾濫せず、洪水も亦た天惠地福と相成候事不少、吾人は偏へに洪水の降らんことを祈候。

△何事も政權及利權にては人心益險惡となり、社會益荒惡となる、依つて天下の先覺先生先愛の人士は、宜しく社會の潤澤、社會の緩和と云ふことに盡力せられたく、恐らく政社の活動よりも一劇場の設立、一會合よりも一動物園を以て善良なる結果可有之候、對韓政策の内に社會政策の一部分をも加入せられたく深く其筋に希望仕候。

△今回設立の帝室博物館に於て朝鮮時代新羅時代並に中古及近世の美術及藝術に關する參考品の展列を期待致居候

△殖民地大學の設立を日韓兩國の政府に請ふ、高等文明を教ゆるの國家は先づ其機關を備へざる可らず候

△各民團は共通せる財政の基本に就て今より其方法を講じ置かざる時は、一大困厄に出會すべく候

△利益均霑門戸開放の實を示さざれば外資は不來、吾人が最近の甲山開放に關して豫期するもの果して來るや否や、之を驗し度ものにて候

東京電報

▲内閣總辭職後任

西園寺首相は辭表呈出と共に桂侯を后任者に奏請す新内閣は總理大臣桂太郎大藏大臣平田東助農商務大臣清浦奎吾内務大臣大浦兼武遞信大臣山縣伊三郎外務大臣小村壽太郎又は井上勝之助都筑馨六の内ならん

▲築城本部長視察

榊原築城本部長は滿韓要塞視察の爲め六日東京出發十二日元山、二十五日釜山、八月一日京城、八日旅順を經て同月下旬歸朝の筈なり（以上四日發）

▲首相骸骨を乞ふ

西園寺首相は今朝天顏に咫尺し正式に骸骨を乞ひ私邸に引取りたり

▲後繼内閣は誰れ

後繼内閣に就ては桂侯の外井上説山本説亦勢力あり容易に決定の狀無し

▲廣東水害の義捐金

清國廣東省水害につき東亞同文會及び東邦協會發起となり義捐金募集に着手し同日二萬圓を集金せり（三日發）

▲祭薬料下賜

兒島惟謙生前の功を思召され兩陛下より祭薬料千五百圓を下賜さる（以上四日發）

雜報

●城壁處理委員會開會

昨年城壁處理委員會を設けられしより未だ一回も會議を催さゞりしが明六日午前十時より内部に於て第一回の委員會を開き左の事項を審議す

一京城東大門附屬曲城取毀ちの件（漢城衛生會屛捨場建設石材利用のため）

一東大門附屬五間水門取拂ひの件（川浚ひの必要上）

一平安北道東林鎭城壁の一部取毀ちの件（京義線改築のため）

因みに城壁處理委員會長は閔内部次官にして委員は劉内部衛生局長權同事務官藤川度支部書記官、韓同部飜譯官、閔陸軍副領（軍部）玄陸軍工兵正尉（軍部）の六名なり

故金玉均氏の書簡

本書簡は記者が往年南洋に在りし日故金玉均氏乃ち邦名岩田周策氏より接受せしものなり今回本紙創刊に付挿畫に代へて茲に掲出す

久シク福音ニ接セザルモ舊雨の感は未た曾て一日も胸宇に來往セサル日ナシ別後ハ眠食を審にするを得ず大に憂愁罷在候中天祐丸御付托玉書拜讀仁兄無事健康を審にするを得て無此上覺愉快候生も去月稍く政府の羈絆を免れ自由の身と相成不相變風塵馬蹄の間に消光罷在候條乍憚御休心被下度候仁兄も瘴烟瘴霧中に在て南島の一孤客生は東洋絶海の一孤客啻に御再會の日を相樂居候先は還答まで　草々

東京　岩田周策

明治二十三年七月十一日

南洋王ナニベニケテー方

峰岸繁太郎樣

●伊藤統監歸朝

西園寺内閣瓦解に瀕したるの故を以て伊藤公には急遽歸朝せらるゝ由なり

●曾禰副統監の歸任

歸朝中の曾禰副統監は昨日馬關を出發せられ本日歸任せらるゝ筈なり

●米國獨立祭

昨四日當地米國總領事館に於ては如例年獨立祭を執行せり我伊藤統監は村田少將以下十數名の隨員を率ひて參賀せらる當日の參賀者は英佛獨淸の各領事各在留外人三浦理事官高瀨副理事官ヘラルド通信員オール頭本氏スクラントン博士韓國大官及本社の峰岸等數十名にして米領事サンセン氏は愉快に諸客に應接しシャンピンの大杯を擧げて共に當日を祝したり

●本社長の演説に就て

過日花月樓に於て開かれたる岡内部次官の宴會に於て本社長峯岸が爲したる演説は一昨日京城日報に拔載せられたるものとは相違の點あり何れは明日の紙上にて明かとなすべし

●龍川府土地問題の過去

一進會對西北學會の問題となり同時に農商工部對帝室及び國有財産調査局の問題となれる龍川府土地問題に關し過去に於て右調査局が執りたる處置を聞くに初め昨年十月十八日雲峴宮より宮内大臣に對し自分は十數年外國に在りて其の間自己の領地を顧みるの暇なかりしに狹雜の毅明禮宮於義宮英親王宮經理院等の名を僞り龍川府下なる自己所領の地より結税を收納しつゝあり故に該地は自己に返還されん事を望む旨を請願したるを同大臣は帝室及び國有財産調査局委員長宋秉畯に移牒し同委員長は時の龍川府尹權鳳洙に對し事實の調査を命じたるに同年十一月三十日附を以て龍川府揚西揚下の兩面は元義州府の所管なりしを近年龍川府に移されたるものなるを以て量案（土地臺帳）なし故に新規調査するの外なしと報告せり依て査局は雲峴宮に該土地に關する書類の提出を求めたるに同宮は大院君時代の結税調査簿及び圖面を提出したるを以て委員長は委員井上雅二、崔錫敏、尹致旿の三名を主査委員として調査せしめたる結果雲峴宮の主張する所は沿革及び事實に徴して的確なりと斷定し二月二十二日全委員會を召集し十三名の委員中兪、崔、李、廉、元、尹、井上、藤川の八委員出席の上主査委員の斷定通り雲峴宮所屬なる事を決定したるものなりと云ふ因みに一進會が農商工部より借地開墾するに至りたる經過は詳探の上更に報導する處あるべし

●慶善宮財産の引繼

宮内府所管不動産と共に慶善宮所屬の財産を國有に移されたる事は既報の如くなるが右財産引繼事務主任佐々木度支部書記官は昨日閔山韻譯官と共に慶善宮に至り同宮監務嚴柱益氏（嚴妃の甥）と會見し財産引繼の打合をなし昨日午前十時嚴氏は同宮財産に關する書類一切を携帶して度支部に出頭し其の引繼を了せり度支部は此の書類に基きて財産を調査し其の性質に從ひて所管を定むる筈なり尚宮内府財産の引繼は昨日一部の書類を了り昨日引繼ぎ數名の度支部官吏同府に出頭し調査し居れり

●財源調査局の移轉

本年一月度支部廳舍移轉の際臨時財源調査局のみは依然移轉せざりしが本廳と隔り居りて執務上不便に付今回度支部構内なる高宮内府内藏院跡に移轉する事に決し目下修繕中にして本月二十日頃迄には落成轉移する筈なりと云ふ

●愛國婦人會救護部會

愛國婦人會救護部會は昨四日午前十時より鶴原總務長官々邸に於て開會したるが大韓醫院長佐藤男爵、藤田軍醫部長、香坂、兒玉、古谷、三浦、松井、永濱、道家、李玉卿、渡邊、頭本、中村、村上、黒田、久保田、淺見、國分、佐々木、三宅、峯尾、木島、鈴木等の各夫人出席佐藤博士に慈善事業か道德實踐上社會教育上最も大切なることより曾て獨逸留學中普佛大戰爭に遭遇したる際獨逸の貴婦人令孃が當時バラック建の假病院に收容したる傷病兵に對し彼我の別なく看護に從事し以て博愛慈善の實を示したる實見談あり我邦の赤十字社及愛國婦人會が漸次發展して戰爭ごとに慰問救護等に顯著なる實績を擧げられしは軍籍に在る者の今尚感激する所希くは日韓關係の益々親密を加ふる今日有力の婦人方か彼我國境の別なく日韓婦人間に於て慈善事業及交際情誼の實を擧げられんことの希望あり尚藤田軍醫部長よりは時間勵行が家政上交際上緊要なる旨興味ある實例を擧げて談話せられ午前十二時前散會したり

●北韓の自衛團

六月迄に自衛團組織の完了せる道郡別は左の如し

咸鏡南道三郡三十七面組織數四十五、咸鏡北道七郡六十四面組織數四百三十九

●第一銀行券改造

六月十一日の認可により今回第一銀行一圓券は韓國樣式に改造せるの結果八月一日より之を使用すべしとは別項記載の如くなるが今回は一圓券と銀貨とのみ改造せしものにして行々は五圓十圓に及ぼすべしと云ふ而して從來使用せる舊新紙幣を引替ふべき各種紙幣は五百十八萬圓にして七月一日より消却すべき分は十錢券二十七萬千四百圓二十錢券二十萬九千八百圓五十錢券七十八萬六千五百圓一圓券百十七萬二千圓五圓券百三十七萬五千圓十圓券百六十二萬圓にして内十錢券を六月三十日迄に既に消却したるもの十二萬五千百五十圓なりと云ふ

●新銀行券見本配付

第一銀行券の樣式を變更する事は曩に報導したる處なるが愈々一圓券は八月一日より發行する事となり度支部は該券見本を地方官財務官及び各金融機關へ配付手續中なり記者は右の見本を一覧せしが舊券より稍小さく縱二寸四分横四寸三分の長方形にして中央に横楕圓形の空白を設け中に李花と太極（巴）の韓國章を漉込みあり印刷は凸凹の兩版式を併用し表面地文は淡紅色にて其の上に濃青色を以て右方に六聯彩紋を置き中に一圓と書し左方には右方と同一の位置に像は掲げず上部には長方形横欄の題額を設け中に株式會社第一銀行券の九字を現せり裏面淡青色の彩紋を布き上に濃紅色にて歐文を記せり尚十圓券も殆んど印刷を了し九月或は十月頃發行する筈にて今回新券を發行するも當分は舊券と併用し漸次に回收せらるゝ方針なりと云ふ

●在韓邦人戸口

本年四月末の調査に係る在留本邦人戸口數を各理事廳別にすれば左の如し（△印は減）

理事廳名	戸數 本月末	戸數 前月末	戸數 増減	人口 本月末 男	人口 本月末 女	人口 本月末 計
京城	八四三一	八〇四八	三八三	一五七四七	一三五七七	二九三二四
仁川	三四五二	三四四二	一〇	七一二九	五七四〇	一二八六九
群山	一五六六	一四七五	九一	三一一〇	二三五〇	五四六〇
木浦	一四〇七	一三二三	八四	三一五九	二〇〇一	五一六〇
馬山	一五九一	一五六四	二七	三一七〇	二四一一	五五八一
釜山	五七八八	五六八一	一〇七	一一七二一	一〇二七七	二一九九八
大邱	一五八〇	一五四八	三二	二五四五	一九三二	四四七七
元山	一六四六	一五七二	七四	三三〇四	二七一九	六〇二三
清津	八五六	七五三	一〇三	一七一八	一〇一五	二七三三
城津	一一九	一一五	四	一九五	一五五	三五〇
平壤	三〇六九	三〇四二	二七	六二一一	三七四六	九九五七
鎭南浦	八三一	八四七	△一六	一六四八	一二一九	二八六七
新義州	一五四四	一四二二	一二二	二七五五	一七四五	四五〇〇
計	三一九〇八	三〇八八一	一〇二七	六三四一二	四七八八七	一一一二九九

●高等女學校の昨今

同校は入學生漸次增加し目下在籍生九十七人出席平均九二と四五の割合なり

●韓官任免（三日附）

依願免本官　警視　金善泳
内部秘書官　金裕會
内部事務官　吳在豐
任内部秘書官叙奏任官二等　端川郡守　劉文卿
免本官

●民團一課長の辭職

釋尾旭邦氏は今回京城居留民役所第一課長の職を辭したりしが氏は日韓書房の招聘に應じ爾今專ら各種出版物の編纂と雜誌朝鮮の執筆に從事すと云ふ

●米澤牧師

曩きに宮川基督教組合會長の一行と共に來韓されたる福井市に任る同會牧師米澤尚三二氏は今回京城基督教會牧師として近々來韓さるゝ筈なり

公人私人

△磯部元彦（南京實業學堂教授）巴城館
△羽山龍吉（日支貿易會社員）同上
△相澤稱松（日本毛織會社員）釜山へ向へり
△德岡政憲（歩兵中尉）來京中の處一昨日釜山へ向へり
△木村昌計（平壤地方裁判所判事）平壤へ歸任
△鮎川元恭（海州地方裁判所判事）海州へ歸任
△齋藤滋五郎（辯護士）平壤へ向へり
△森繁（同上）日本内地へ向へり
△黒井文彌（開城警察署長）一昨日歸任
△深川傳次郎（釜山副理事官）一昨日義州へ向へり

●近事片々

▲曾根　副統監本日歸任せらるゝ筈一度踏出せば後に退かぬ御託宣あり斷ず所何者ぞ
▲拓植　會社創立の發表は其一也懷柔策より一歩を進轉せしむる事其二也ぞ如何にや
▲地方　農政の改勵其三ぞ農業獎勵は孰か最も意を注ぐ處ならむ着眼凡と雖も確實也
▲拓植　創立に就て伊桂間の融和に勉め圓滑に處理し得たるは多とすべし御苦勞千萬
▲曾根　子爵任し亦伊藤公東上の順番となる一去一來借も頻繁藤公東上の土産は如何
▲今度　の東上には首相完用を伴はると聞く果して然るか現閣維持の爲には効あらん
▲一進　會の首相及他の閣臣に對する示威的活動も何時か知らぬ間に烟散霧消となる
▲明月　館一夕の御馳走にて豈夫斯程の覺悟を放擲したる筈なし何か他に理由ある乎
▲完用　允用の兄弟渠等に對する何事か防衛策を施せりと聞く之を打明る今尚は早し
▲事情　を能く知る者曰く宋秉畯は策士也利口也と頻に賞揚して措かず何等の意ぞや
▲斯る　謎語の中に時々意外の秘密を包むことあり事實は早晩之を明にすべしと云ふ
▲如斯　一進會の咆哮止み虎ば鼠の如くなれり完用内閣も先づ〳〵當分は安全至極也
▲宋氏　内相となり岡氏次官となり内部勢望隆々たり果て地方行政の刷新擧ぐ可き乎
▲警視　廳權限縮少問題起ると共に總監更迭早くも傳ふ龜山釜山理事官後任たらんと
▲併し　此等問題は未也不急也寧ろ學部軍部の廢止を早く斷せよ事の緩急を辨すべし
▲人參　の收入を國庫に移し其專賣局設置さるべしと此官營專賣は弊害百出せざるか
▲人參　は韓國に於ける特殊の物產にして收入の割合に騷ぎの多き問題盍注意肝要也
▲昨日　は米國獨立祭にて朝來米國領事館に花火打上げらる祝宴來賓多く盛なりしと
▲米國　の獨立祭に逢ては何時も華盛頓の高風正氣を聯想し平時の俗心慨として止む
▲西園　寺首相病を以て辭表を差出し他の閣臣亦辭意を決すと現時の趨勢或は然らむ
▲雖然　後繼内閣の組織困難なる上は容易に御裁可なからん此際桂侯の決意如何のみ
▲慧巧　なる桂侯が能く此難局を引受るや大勢現閣を捨るも此發合が如何あるべきや
▲後藤　滿鐵の現閣に對する態度は將さに一打擊となれる推知し得べし茲一寸見物也
▲陶庵　宰相の厭氣になりしは今の事に非ず事情は余義なく今日に至る心事諒すべし
▲今回　も或は今暫く位の處にて居据りとなりはせぬや局面の轉回は甞ど六敷からん

●本日本紙廿四頁

社告

本紙創刊に對し大方諸君より多大の御同情を蒙り祝詞物品等を寄せられたる段深謝此に厚謝仕候
昨日近火の際は早速御見舞を辱し難有本深謝候此に謹で紙上を以て御禮申上候

七月五日　西小門通　京城新聞社

●西小門通の晝火事

△場所は本社前向ひ△日清韓三國人の狂奔△燒失家屋四戸

雨ふらんとして雨ならず晴れんとして晴れもやらざる昨四日午後二時頃西小門通り本社向ひ菓子商相川彦一方二階より突如火を發げたればスハ火事よとばかり附近の者は喚き初めたるが火は早くも其の南隣り煉瓦作り支那家屋に燃移り空をも蔽ふ黒煙を天に漲らしたり、去れば場所柄だけに附近の

▲日清韓三國人 は西へ東へ狂奔しアレヨ〳〵とばかり狼狽する間も一方出火の家屋に驅け込みて家具を搬出する者もあり又愛に時ならぬ意外の修羅場を現出したるがこれより先き西、南の兩警察署に急告するものあり警鐘亂打されたるが斯くと知りたる消防隊は逸早く

▲消防昇泰號 の喞筒を先登に日本居留第二消防、皇宮警察等相前後して驅け付け必死に消防に盡力する處あり一方西、南の兩警察署よりは

▲鈴木警視以下 幾部數名多數の警官を引率して出張し警戒怠り無く諸般の配置遺漏なく行屆きたれば消防は益々切々の働きをなして火の手は漸く衰ねんとす、然れども木材壹あの日本家屋とペンキを用ひし支那家屋のことなれば容易に消し止めずして燃えに燃えて前記相川方菓子の朝鮮家屋二戸に類燒したれば壯觀凄きものありたり、斯かる程に工、歩の兩兵士も來り加はりて消防に盡力するもの有り斯くて給水は左まで缺乏を訴へざるのみならず斯かる時にこそ一層必要の

▲水道消火栓 を開けてドシ〳〵給水したるを以て消防も意の如くに運び尚當時煮え切らざる天氣の有難さには

▲ソヨとの微風だに無く 遂に午後三時半に至り全燒三戸半燒一戸にして全く消し止めたり其の

▲罹災人名 は日本人としては前記相川彦一名にして他は清國人廣昇號、黄月亭、周德五なり而して

▲發火の源因 に就ては目下尚取調中にて正確のことを知るに由なけれども出火當時の模樣附近の風說等を綜合すれば相川方の煙突より發火したるらしと云ふ者あり

▲損害の程度 は前記四戸を通算して大凡を四千五百圓に上るべく尚ほ周德五方は目下空家なりき

▲雜記 頃益間の火出と謂ひ市内各所の警鐘亂打さるゝと共に時節柄の眠氣發して驅け付けたる彌次連少なからず爲めに西小門通り一帶は一時立錐の地なき迄の人出にて非常に混雜したり△清商怡泰棧は鎮火と共に直ちにビール菓子煙草等を寄附して現場に於て各消防隊を待遇せしは奇特と云ふべし△本社工場員は出火と聞くや否な折柄の就業中にも係はらず直ちに罹災家屋に踏み込みて家具家財の搬出に加勢し消防其他の來合せたる後之に讓りて引上げ再び就業したり

●連日附近の増水

六月三十日午後八時頃よりの強風雨は連日の降雨にて七月二日午前三時頃に至り漸く止む正午に至り全く快晴となりたるも各河川は之がため非常の増水にて連山、太田間の豆市川並に連山論山間の砂橋川は全く交通杜絶し一日より太田、江景間の郵便物は停止せり然れども地方は何の損害なく曾て農民は喜び目下の雨を侵して農事に從事し多忙を極め居れりと云ふ

●漢城病院の昨今

現在漢城病院入院患者は內科三人外科四人眼科一人耳鼻咽喉科二人婦人科二十二人計三十二人外國人耳鼻咽喉科一人婦人科一人計二人合計三十四人なり而も外來患者總數は二百六十四人內婦人科五十一人耳鼻咽喉科四十八人眼科四十二人外科六十一人なりと云ふ

●六月中の傳染病患者數

六月中に於ける傳染病患者の總數は二十七人にして內全癒せしもの九人死亡せしもの四人尚青坡病院に入院せるもの六人あり是亦五月に比すれば十五人の多數なり

●日曜說敎

旭町二丁目名古屋城日本メソヂスト敎會にては五日（日曜）朝九時より聖書研究あり同十時より木原牧師「神の福音」なる說敎あり夕八時よりは傳導說敎あり

●朝鮮第五號

本號には「韓人敎ふべきか敎ふべからざるべきか」の奇警なる問題の下に之に對する在韓諸名士の意見を掲載せり、各樣の見解別趣の觀察、或は敎ふべしと論し、敎ふべからずと說き又或は敎ふるには時と方法とに依ると述ぶる等所論交々異れりと雖も要するに這種の問題を捉へ來りて一般識者の研究に俟たんとする記者の着眼は確に時宜に適せるものといふべし、其の他又本號には嶄新にして警拔なる懸賞寶探しの擧行あるを以て之が活躍は從前に比して一層目醒ましく其の趣味の津々たると實益の豐饒たるとは兩々相俟つて世人の眼を悅ばしむるものあり（一部二十錢京城本町日韓書房發行）

●辰子の心中立

本町三丁目郵便受所事務員澤田定八郎が各所の料理屋等に遊興して同所の金千餘圓を費消したることは曾て發覺し當警察署に拘留せられたることは曾て報せしが定八郎は開進亭の藝妓辰子事本名京都府平民中辻フジ（二十）の色香に迷ひ殆んど毎夜の如くにフジの許に通ひ遂に之を落籍して旭町一丁目附近に圍ひ居りしに定八郎は大金費消のこと發覺して左の如く南部警察署の手に依りて捕はれ鐵窓の下に呻吟する身となりたればフジは一時は大に驚きしも扨て定さんが此の始末になりたるも妾の爲めから起つたことゝ甲斐々々しく差入萬端フジの手より出し裁判開廷の際にも岩田辯護士に辯護を賴むなど一日も早く無罪放免の日を待つて二人が昔語りにせんと樂みし甲斐なく過日理事廳裁判にて公判開廷せられたるに定八郎の惡事が何で無罪になるべき罪名も忌はしき窃盗罪にて重禁錮二ヶ年監視六ヶ月に處せられば此日結果如何あらんと傍聽席にありしフジは宣告の終るや直ちに定八郎に會ひ窃盗とは餘りに酷ひ裁判貴郎グッ〳〵せんと早く法務院に上訴して貴郎の明りを立てなされ費用は幾何でも妾が出しますと心中のありつ丈を見せて勵したるにぞ定八郎も直ちに上訴の手續に及びたりとのことなり

●妻の家出

本町七丁目に小さな店を開き魚類を賣る佐賀生れの某と云ふものあり國元にては可なりの財産もありしも持つて生れたのが賭博といふ道樂にて親の再々の意見も馬の耳に風と聞き流して此道樂に耽るにぞ何ぼう子に甘き兩親でもソーは堪忍ならぬとて勘當したれば某は最愛の妻も國に殘して當地に來り今の處に小やかの店を開き魚類商を初め一心不亂に働きしかば可なりの金も出來たるにぞ國に殘りし妻も今は道樂も止みしならんと親々の止むるも聞かず跡を慕ふて當地に來りしは昨年の頃にて夫より二人は共に家業大事と稼ぎしかば家運も日に榮ふるばかりにて多少の融通も利くより持病は又々再發し妻子もあるにも拘らず今度は彼處の淫賣屋此處の女郎屋と飲み散し買散すと云ふ放蕩に妻のれ何も眉を顰めつゝ夫れとはなしに意見せしも意見すればする程募るばかりにてハテは家內に風波の絶ふることなき有樣なりしが二三日前も某は新町遊廓に登樓し翌朝車に乘りて歸るや妻は此體を見て業を煮やし一言二言云ひ爭ひ末遂に子を投掛け有金百圓を取り出して何處へか姿を隱せしかば一時は當惑せしも素より斯くあれかしと望み居りしこととて其夜より直ちに何處かの淫賣婦を引張り込み此方が却て結構〳〵と巫山戯居れりと七丁目界隈にて專らの評判

●何の爲めに騷ぐ

昨日午前十一時頃南大門通り三丁目第一銀行新築地前に於て韓人巡査がチョンガーを捕ゑてシタヽカ毆ぐり居りたるが何の爲めに斯かる亂暴の事をするか更らに判らずチョンガーが頻りに悲鳴を揚げて宥しを乞ふにも係はらず巡公は尚ほ鐵拳を亂下して傍若無人なりき打擲はられたる總角は久しく路傍にて苦痛を訴へて泣き居りき附近には會洞派出所あり日本巡査も居りたれど知らぬ顔の半兵衛さん統監の警衛に疲れたらしく立ち盡くし居き

●韓商の盗難

昨四日午前二時頃龍洞五十八統一戸布木商李照元方店先きの戸を切り破りて賊侵入し支那布百六十六反麻布十三反金指輪一個現金十八圓株券二枚外二點を窃取したるを夜明け方に至り同家の主人が知り大狼狽を極め警察に訴へ出りた

●遊廓の便所を破る

本町七丁目居住石工業靑木吉太郎は新町遊廓南山樓裏手民團役所々有地に於て火藥を使用し石破りをなし居りたるに昨日右の石片南山樓の便所に飛び屋根方一尺ばかりを破損せしめたるにぞ南山樓にては危險に思ひ折柄通行中の巡査に其旨訴へ出でたるにぞ巡査出張して取調べたるに靑木は日韓人數名にのみ仕事を任せ爲めに火藥を使用する際蓋覆等をなさゞる爲め斯くは石片飛散することゝ知れたれば靑木を警察署に召喚して嚴しく注意する處ありたりと

●疲れし舟

れい生

今や來る、嵐の前の靜けさに
浪織らぬ白き湖の、髮の葦根に
不思議なる船こそ縣れ雪の艶。
柔き躑板には敷く緋のにしき
飾るは一つ螭火にもねて深紅の
珍の玉……心ときめく妙の香。
朝開き…舟人よ急ぎたる血力に
空よりたてぬ瑯玕の圓き帆柱
その刹那、哀れや起る熱の風。
白き浪、上れば下る木の葉舟
眞紅の玉は眩めきて搖れ醉ふ中を
何時しらに行方もわかぬ圓柱。
風止みぬ、空も晴れたる日の光
さまれ仰ぐも、目映しげに、疲れて靑き
息喘く呆けしさまの濡れ小舟

●白川田宮一座

本町座にては近日中白川廣一、田宮貞雄の大一座乘り込み電氣仕掛けの演劇を開場する筈にて初日の藝題は前狂言小栗風葉氏作「母の心」全六幕切狂言は舊劇にして雪月花なるが雪は「金州土城子小佐川騎兵大尉志村一等卒別れの場」月は「高山彦九郎」花は「娘道成寺」何れも電氣仕掛けにて出す由なれば開場の上は嘸ぞ大入を占むるなるべし

●六車動物園

西小門通りにて一般の觀覽に供しつゝある敎育參考六車萬國動物園は其後も日々多數の觀覽者あり大賑を呈し居れるが今回更らに內地より珍動物數種を新たに輸入し兩三日前より在來のものに加へて觀覽に供しつゝあり爲めに觀客一層多數となりたり

（平民）（文庫）

▲市中の小料理で深更まで騷いで居る事は是非其の筋で取締つて貰ひたい（不眠生）▲これと同一の投書甚だ多し警察にても多少取締の必要あるべし（記者）▲花月の辰子事が或る大熱々の筋に大事な髮を切つて遣りたはいゝが其後修理中とはた氣もじ樣（岡燒生）▲朝鮮名物の杏や李を餘計に喰らと赤痢に罹るよ特に兒を持つ親達は注意すべし（ドクトル）▲好きな彼の娘を思ひ切る氣か金の成る氣かドチラかあればよい（ニヤケ）▲貴社の投書函を設けて下さい（龍山生）▲銀筋に惚れた屁つ錦藝妓あり甚だ滑稽のことあれば投書しましようか（旭町生）▲投書するは妨げなし去れど格別珍しくもなし（係り）▲頻悶子よ正直者は往々他より誤解さるゝ事あれど是れ却て其の人の眞價を認めらるゝ動機となることあるべし敢て人を恨む勿れ世を恨むな至誠終に神人知る（一知己）

祝發刊